



八百年への歩み

法主 常磐井 鸞猷

本年は開山聖人七五〇年の御遠忌に当り、本山を始め各別院・各寺院で盛大に報恩法会が執り行われましたことは慶賀にたえぬ所であり、各寺住職ならびに檀信徒の皆さんの捨身の御尽力に対し、心から感謝いたします。

さて、明年からは五十年後の八百年御遠忌の円成を目指して、今後の人達のために法の楔（くわ）を打ち、しっかりしたお念佛の足がかりを築いて行かねばなりません。明年後にお迎えする一光三尊佛御開扉法会と、中興真慧上人五百年忌法会は、そのための又とない機縁をお恵み下さるものと存じます。

発行所
真宗高田派宗務院
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



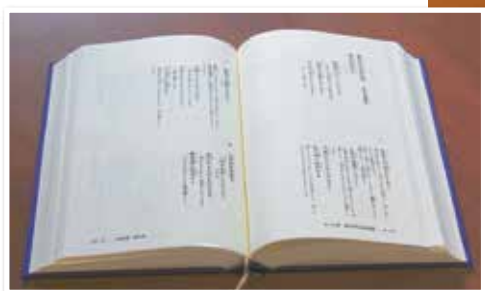
山内では、中絶していた高田会館の建設がお七夜すぎから始まり、夏までにはご門徒の研修道場として、また憩いの場としての立派な姿を現わすことでしょう。

総合案内所も建設され、参詣の便宜も十全に図られることと存じます。お陰をもつて堂舎は整いました。あとは何を学習して行くかです。

幸いなことに、此度の御遠忌を記念して、「真宗高田派聖典」が刊行されました。各寺院にはすでに配られてありますが、できればご門徒の皆さんもご家庭にぜひ一冊備えていただいて、先ず「浄土和讃」から読み始めていただきたいと思います。

三帖のご和讃は「和語の教行証」と呼ばれているように、内容は『教行証』にひけを取りません。真宗の肝要が見事に唱われており、読誦して行くうちに、

自然に他力の念佛に導かれて参ります。
新年からご和讃を友とし、自らの信心を磨いて八百年への歩みを進めて参りましょう。



七高僧シリーズ③

天親菩薩(上)

天親菩薩は、インド名をヴァスバンドウと言い、世親菩薩とも訳されています。龍樹菩薩の没後約百五十年、西暦四百年から四百八十年頃の人です。

天親菩薩は男ばかりの三人兄弟でした。天親菩薩がお生まれになったガンダーラ地方は、当時小乗仏教が盛んでした。そんなわけで、三人共はじめは小乗仏教の修行者として出家されたと言われています。

天親菩薩は、学問においても、修行においても彼に並ぶ

人はいなかったと言われています。小乗仏教のすべての教えに精通され、そして『阿毘達磨俱舍論』三十巻をはじめ小乗仏教の書物を多く著されました。

その後天親菩薩は、兄無著菩薩のすすめによって、大乘仏教に帰依し、大いにその教えをひろめられました。古来、小乗に五百部、大乘に五百部の著作があることにより彼を称して千部の論主と言われています。大乘仏教というのは、自分一人のさとりに安住する教えではなく、自分も他人も

共にさとりに至る教えの事です。この中、浄土教に直接関係あるものは、『無量寿経優婆提舍願生偈』一卷で、本書は一般に『浄土論』又は『往生論』と言われており、天親菩薩の根本論書であると言われています。それは、阿弥陀仏の浄土に往生して、自らさとりを開き、やがて浄土から迷いの世界にかえって、苦悩の衆生をさとりの世界に導くという、自分も他人も共に救われていく道を説かれたものです。

親鸞聖人は『正信偈』に「広由本願力廻向 為度群生彰一心」と、天親菩薩は広く一切衆生を救うために、阿弥陀仏より廻向された、第十八願の一心をあらわしてくださいました。その第十八願の一心とは信心のことで、この信心には仏の智慧、慈悲が具わっているから、それが成仏の因となって、信心一つで一切衆生が救われるのだと、はっきり示してくださったと讃えられています。

(教学院第三部会)



世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414

(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風
御本山絵所

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720

FAXフリーダイヤル 0120-075-490

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入 (中央局区内)

電話 (075)371-0854・8181~2番

FAX (075)344-2701番

振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344



仏壇・仏具
ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

リレー法話

「寂しさ」と共に

浦上 勇哲

一年ほど前にご主人を亡くし、一周忌を終えたご婦人に、こんなお話しをお聞きました。

「一人暮らしの私が寂しがつていと思うと、子どもが孫を連れて遊びに来てくれます。賑やかで有り難いのだけど、でも夫を亡くした寂しさを埋められはしないんですよ。月が満月からほんの少し欠けているみたいに、何がどうとは言えないんですけど、寂しさは埋まらないんです。」

このお話しを聞いて、人間の寂しさということを考えさせられました。仏説無量寿経には「人は、独りで生まれ独りで死に、独りで来て独りで去るのである」と記されています。また原始仏教の經典スッタニパー

タには「犀の角のようにただ独り歩め」と書かれています。

真実であると思います。

私たち人間は、どんなに愛する家族、どんなに親しい友がいようと、生まれる時、死する時、独りなのです。でも、真実とはなんと厳しいものなのでしょう。お釈迦さまならぬこの身では、受けとめることの難しい真実です。

だからこそ私たちは、何か大きな存在にそばにいて欲しい、と願うのではないのでしょうか。

真言宗に「同行二人」という言葉があります。四国の八十八箇所を巡るお遍路さんの浄衣などに書かれています。これは「一人で歩いていても、常に弘法大師空海さまと一緒に居て下さる」という意味だそうです。また「南無大師遍照金剛」と唱えながら歩くそうです。「大師」も「遍照金剛」も空海さまのことで、その空海さまに「南無」と

ここを寄せながら歩くのです。

真宗でも、親鸞聖人の御

遺訓と伝えられる『御臨末の御書』にこんな一節があります。

一人居て喜ばば

二人と思ふべし

二人居て喜ばば

三人と思ふべし

その一人は親鸞なり

(一人で阿弥陀さまの慈悲を喜ばれている方は、どうぞ二人で喜んでいと思つて下さい。

二人で喜んでいいるならば、三人だと思つて下さい。

そこに寄りそう一人とはこの私、親鸞です。)

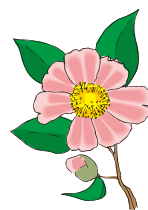
後世の創作のようですが、これも親鸞聖人を慕う人々の気持ちの表れではないでしょうか。

私たちもやがて、大切な人を失い、大事なものを手放し、その代わりに寂しさを手にしながら人生を歩みます。しかしその寂しさは、

その人やものを大切に思つたあかしです。打ち消す必要も、乗り越える必要もありません。

そして、その寂しさを抱えた私を丸ごと、阿弥陀さまが救いとして下さるので

(横浜市 成就院衆徒)



京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店／京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

朝枝善照著作集第五巻
妙好人と石見文化
定価10500円税込

直林不退著

日本三学受容史研究
「元亨釈書」の史料考察・日本古代仏教受容過程の展望・虎関師錬の描く古代仏教史像・日本における戒律受容の始源／仏教「制度化」と三学受容／僧尼令・僧綱制下の三学受容
定価7980円税込

中西智海先生 喜寿記念文書
一色一光
定価2800円税込

高田慈昭著

香光莊嚴
—念仏の人生—
ふとした対話／遠くで近きは／日本人の宗教観／日本人と仏教／仏教になぜ宗派があるのか／後生たすかということ／尋常に非ず臨終に非ずほか
定価2100円税込

無名会同人編

仏と人53
定価410円税込

円日成道著

観無量寿経講読19

神通の如意
定価2520円税込

600
8342

京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 075-337-1196
FAX 075-337-1196
0155-0200-49335611

親鸞聖人 751回御正忌報恩講 平成25年 お七夜案内

平成25年 1月9日～16日

4月に親鸞聖人750回遠忌報恩大法会を円成してから、初めての報恩講です。御遠忌の賑わいをそのままに、50年後の800回遠忌へ向けての第一歩として、来年の751回御正忌報恩講（お七夜）をお迎えしたいと思います。皆様の賑々しいご参詣をお待ちしております。

おまいり（勤行後、お説教）

晨 朝 7:00～
日 中 10:00～
逮 夜 14:00～（9日のみ 12:30～）
初 夜 16:30～
後 夜 23:00～（15日のみ）
御参廟 16日(水) 9:00～



特別説教（講演）

- ・御親教
15日(火) 日中後
復演 鑑学／新光晴師
- ・如来堂特別講演 9:00～
13日(日) 津市彰見寺衆徒
鑑学／西來智教師
14日(月) 四日市市誓元寺住職
鑑学／栗原廣海師
- ・大講堂説教 12:30～
10日(木)から16日(水)まで 毎日行います



その他の行事

- ・献 書 展
9日～16日 宗務院1階ロビー
- ・生 花 展
10日～15日 境内休憩所
- ・宗旦古流呈茶 10:00～15:00
9日～15日 有慶堂（9日のみ13:00～）
※呈茶券をお求めの上お越し下さい。
- ・お尋ねコーナー 10:00～15:00
10日～15日 宗務院1階ロビー

・安楽庵見学

9日……………14:00
10～15日……11:00・14:00
16日……………11:00
※見学をご希望の方は進納所にお集まり下さい。





大会・行事等



・お七夜坊守会

10日(木)
12:00～ 御影堂にて式典
講演／高田短期大学学長 栗原廣海師

・責任役員会

11日(金)
10:25～ 御影堂前にて受付
10:30～ お日中参詣

引き続き、全国高田派寺院の責任役員を対象とした大会を開催いたします。

・お七夜婦人連合会

12日(土)
12:00～ 御影堂にて式典
講演／津市浄福寺住職 鈴木紀生師

・お七夜高田派青年会

12日(土)
11:00～ 宗務院にて受付
高田派青年僧侶を対象とした研修会です。
今年は一光三尊佛について学びます。

・お七夜子ども大会

13日(日)
12:00～ 宗務院2階にて受付
13:00～ 式典・アトラクション・献書展表彰式
高田高校仏青インターアクト部のお兄さん、お姉さんたちの楽しいアトラクションがごぞいます。
お気軽にご参加下さい。

・新成人の集い

14日(月)
12:00～ 宗務院1階にて受付
14:00～ 式典・お逮夜参詣

平成25年に新成人になられる方はどなたでもご参加いただけます。
どうぞ友達とお誘い合わせて本山へお越し下さい。お非時をご用意しています。

・法主褒賞式

15日(火)
11:50～ 御影堂にて式典



宝物館特別展観

入場料無料

お七夜期間中、宝物館を特別に開放しております。
高田本山に伝わる法宝物を毎年テーマを変え展示、どなたでも自由にご覧いただけます。

開館時間 9日……………12:30～15:00
10日～15日……10:00～15:00
16日……………10:00～13:00

◎毎日13時より研究員による宝物解説を行います。



高田のお説教

真宗では、經典に説かれた教え、親鸞聖人の示されたお聖教を、現代の言葉に置き換え解りやすく説き広めるものとし、お説教をとっても大切にします。高田本山では勤行の後には必ずお説教がごぞいます。

今ではマイクがあり、本山の広いお堂の隅々まで声が届きますが、昔はそんな便利なものではありませんでした。そこで、参詣された方々へお説教の声を届けるため一工

夫されたのが高座です。高さ約1メートル、半畳ほどの台座の上に座り、皆様より一段高いところからお説教させていただくのは高田派の伝統でもあり、一人でも多くの方に親鸞聖人の示されたお念仏のみ教えを届けようとした気持ちの表れでもあります。

親鸞聖人の御命日にあたる報恩講をご縁に、お念仏のみ教えをご聴聞下さい。



中興上人 五百回御正当法会に寄せて

四月の親鸞聖人七百五十回遠忌法会からもう八ヶ月。

十二月の八日から十日まで、中興上人の五百回の御正当法会が営まれます。専修寺

第十世真慧上人は親鸞聖人滅後の二百五十年後、永正九年（一五一二年）十月二

十二日にお亡くなりになります。寛正元年前後ころ、下野国の高田から近江・伊

勢国への教化の旅に出られ、その後の半生を高田専修寺興隆のために尽くされました。

中興上人は教化の旅のなか

で、羽二重地の御袈裟に御名号を墨書し、野袈裟として人々の葬送に供されたことでもよく知られています。

図版は中興上人の伊勢巡錫中、文亀元年（一五〇一年）四月八日に、神納道場に宛てて墨書されたものです。

神納道場は現在の三重県津市神納町に在った道場です。この野袈裟は今は軸装にて保存されていますが、表具に改装する際、六字名号

の直下に「神納道場」と記されてた部分を張り込んであることに特徴があります。野袈裟には必ず真慧上人の自筆にて、授与先の道場名や道場主の法名が墨書されているものですが、後世、この御袈裟が人手に渡ったとき、持主の道場名は省かれることも多々あるのです。

その点、この野袈裟には表具の時の改変が加えられていない素性の良さが感じられます。特に、この御名号の筆力は、中興上人筆跡のなかでも優品の一つと思われます。

（宝物館主幹 新光晴）



真慧上人直筆の野袈裟

刊行物のご案内

親鸞聖人七五〇回御遠忌記念。
真宗高田派の所依の聖教を収録。

『真宗高田派聖典』

真宗高田派聖典編纂委員会 編

価格 15,000円(税込)

進納所にてお求めいただけます。

高田山専修寺で大切に伝持してきた親鸞聖人の自筆本、直弟子による書写本、さらに歴代上人の御書等を収めております。十数年にわたり編集活動が続けられ、聖人がお説きいただいた内容を現代仮名遣いで読みやすく改められています。聖人のみ教えに遇うための必携の書です。

◎表紙に写真が掲載されています。

ご和讃のお話

金信 玄昌

願力成就の報土には

自力の必行いたらねば

大小聖人みなながら

如来の弘誓に乗ずべし

(浄土高僧和讃 善導禪師 第十一首)

(現代語訳)

この和讃を意識してみま
しょう。「阿弥陀仏の本願が
成就して、そのはたらきで
建立された浄土へは、真理
を悟り仏に成りたいと願う
心や、その為に修しなけれ
ばならない戒、定、慧の三
学を修したり、六波羅蜜行
を始めとする幾つかの行を
修する自力の在り方では往
生が出来ないので、小乗や
大乘の立派な聖者、修行者
達は皆その自力修行の立場
を捨てて、きつと阿弥陀仏
のお救いを信じ本願のはた
らきにまかせるであらう。」

この一首は、浄土に往生
できるのは阿弥陀仏の本願
力によつてのみできるので
あるから、阿羅漢果という
小乗の悟りを開いた聖者や、
衆生を救うために修行して
いる大乘の修行者は浄土に
往生することは出来ないけ
れども、本願を信じ、その
はたらきにまかせることに
よつてのみ証(さし)り(浄土で得
るさとりは「証」の字を用
います)の境界である浄土
に往生することができ、
ということ述べられてい
る和讃です。
「報土」とは「本願酬報の

土」の略で、阿弥陀仏の西方
極楽浄土のことです。浄土
を報土と言うのは、浄土は
阿弥陀仏が全ての人々を救
う、つまり、涅槃の証りを
得させる所として本願に誓
われ、その本願が成就し建
てられた国土ですので「本
願に報われた国土」という
意味で報土というのです。
親鸞聖人は、「真実報土」と
も語っておられます。
「大小聖人」とは、小乗
の聖者、大乘の菩薩・修行
者、聖者のことです。小乗
は自身の悟りを求めるだけ
の在り方の教え、これに対
して大乘は自身の悟りを求
めるだけではなく、他の
人々を悟りに導かせるはた
らきを持つて修行に励む在
り方の教えで、共に自力修
行を基本としています。

自力修行の聖者は、自ら
の力で悟りを得るので、本
願・仏智を信じる必要がな
いのです。しかし、阿弥陀
仏の浄土に往生しそこで涅
槃の証りを得ようとしても、
本願が興(おこ)された謂(いわ)れを信じ
ることがなく、お念仏を称え
る事もないので、阿羅漢果
を得た小乗の聖者でも浄土
に往生することはないので
す。また、大乘、小乗の自
力修行の在り方では、真理
を悟るのに長い修行の時間
を要するのですが、浄土で
涅槃の証りを得るのには、
浄土に往生したその瞬時に
得る事が出来るのです。浄
土での証りには長い時間を
要する事もなく、それに伴
う自力の計らいも要らない
のです。それを思うと、自
力修行による悟りの道では
なく、煩惱を断ち滅しなく
ても、ただただ本願を信じ
順(しん)たがうことだけ、つまり
そのままでお念仏を称えさ
せてもらうだけでよいので
す。
「べし」は、阿弥陀仏の救
いの理(ことわり)に対する聖人の確信
を表わしている言葉です。

(鈴鹿市 善昌寺住職)



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠
高級御影石専門店
御影石材株式会社
(石に御用の方は)
TEL 0120-142540
本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式會社 **ISHISEN STONES 石仙**
(旧(有)山本石材店)TEL 0120-67-4114
四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

これからの

本山諸法会

高田本山の年末年始

◆除夜の鐘

十二月三十一日

本山護持会が主催となり、一身田寺内町の方々の協力により、今年も大晦日の除夜の鐘を行います。夜十二時半～十二時半の間、静かな境内のなか、厳かな鐘の音で開けてゆく新年、本山の大きな鐘を間近で見ることも、ましてや撞く機会はそのそうそうございません。暖かい格好をしてお越し下さい。



◆修正会

一月二日～三日

阿弥陀如来と共に新年を迎えられたことを喜び、如来の恩徳に謝し、如来の本願を届けて下さった祖師の方々を讃仰する年の始めの法会です。

修正会では一年に一度だけ「繡御書」が拝読されます。第十八世圓遵上人がお書きになりました繡御書は、年のはじめにあたつて忘れてはならない仏法の要をわかりやすく説かれており、克明に求道のころを諭してくださっています。

晨朝 午前七時より

(元旦のみ午前六時三十分より)

御参廟 元旦のみ晨朝後

日中 午前十一時三十分より



インフォメーション

総案内所

本山の唐門からもんを入って左側に総合案内所が完成いたしました。

今までご参詣のみなさまには、目的に合わせて境内を東へ西へと行き来していただいております。特に初めて本山へ来られる方にとって、迷いながら歩いていただくとには広すぎる境内だと思ひます。

新しく完成しました総合案内所は、当面納骨受付からスタートしますが、徐々に進納受付・団体参拝受付・読経受付・情報発信などの業務を一手に担い、ここを訪れていただければすべてに対応出来るようにいたします。混乱する時代に生きる道標みちしるべを示すのが仏道であるならば、本山へのご参詣のひとりひとりが迷うことなく気持ちよくお参



りできるように、ご案内させていただきます。ご案内所といえるような施設を目指します。分らないことがあれば何でもお聞き下さい。職員がハキハキと対応させていただきます。みなさまのご参詣をお待ちしております。

お七夜

本山内有慶堂にて

そう たん こ り ゆ う て い ちゃ

宗旦古流呈茶

平成二十五年一月九日(水)～十五日(火)

午前十時～午後三時(九日のみ午後二時から)

◎呈茶券(五百円)を宗務院・進納所でお求め下さい。

寺院名

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索